原水爆禁止2012年世界大会・広島参加報告

被爆された方の体験談に涙

【原久美子・主婦の会会長】五月一〇日、東京夢の島を出発し、九〇日間かけて八月四日、広島平和祈念公園に平和行進が到着。六八〇〇人の参加で行われた開会式は若い人も多いが、八〇歳過ぎの人もいる。「核兵器をなくそう」「原発ゼロ」を訴え続けた八七歳の方が、自分達が受けた原爆の恐ろしさ、悲惨さを、声をつまらせ昨日のように語った。

山口県、広島県をアメリカ軍は逃げ惑う人々を低空飛行で射撃し、一般の人を次々と殺していった。六七年前の八月六日八時一五分「ピカッ」と青白い光を放った瞬間、一四万人以上の命は散った…、一人一人の命は尊いはずなのに。戦争はどこの国でも弱い人が犠牲になり、今まで普通に暮らしていただけなのに…、特別な幸せを望んだりしていないのに…、一四万人以上の命がいっぺんになくなるなんて。

分科会では「ヒロシマを生きぬいて」と題した体験談がありました。「ピカドン」は人間が落さにゃ落ちてこん。一発の原爆で、あの時仕事に行く人、学校に行く子供達、洗濯物を干すお母さん、昨日と同じ生活があったのに、すべてヒロシマは原爆砂漠になってしまった。本川小学校（一番原爆投下地点に近い小学校）四〇〇名の生徒は、先生一名、生徒一名だけが残り、あとは全員亡くなってしまったそうです。

ヤケドの人、怪我人、風船のように顔がふくれあがった人々、そこには怪我人がムシロの上に並べられ、苦しさに足をバタバタさせながら次々に死んでいった。診療所にはいろいろな人が来るが、ボロボロになった母親がもう死んでいる我が子を抱えて、首の所の肉が見えているのを縫って欲しいと言われ、母親の気持ちを考えると何とも悲しく、言われるまま消毒して縫うと大事そうにその子を抱いて町の中へ消えていった。私は涙が出て、胸が痛くなりました。

八月六日の閉会式、八時一五分黙祷、静かに目を閉じると鐘の音が聞こえます。一つ、二つ、三つ…、七つ鐘が鳴りました。するとまた一層セミの声が甲高く鳴き出しました。白い鳩がいっせいに解き放たれ、群れをなして大空に飛んでいきます。三時頃空を見上げると偶然にもキノコ雲のような雲が沸き立っていました。あの時の事を皆に忘れないで欲しいと思ったのでしょうか？

夜はドームのそばを流れる川で灯籠流しをしました。私は「六七年前さぞ無念だったでしょう。どうぞ安らかにお眠り下さい」と書き、水辺に流しました。

私達は戦争を知らない子供達。歌にも唄われていましたが、早六〇歳も過ぎ、かわいい孫がいます。夫を息子を孫を戦争に取られてはなりません。日本から遠く離れた南の島では、若者が南十字星を仰ぎながら、故里を思い出し、決して「天皇陛下バンザイ」ではなく、母や恋人の名前を呼びながら死んでいったと思います。こんなことは二度とあってはならない。

被爆体験を持つ日本。福島の原発も同じです。私達主婦が子供達に同じ思いをさせないように立ち上がり、「原発ゼロ」を訴え続けていきましょう。

広島へ行かせて頂き本当に有りがとうございました。

人・人・人…今年も広島はあつかった

【鈴木誠副委員長】開会総会の会場内は人また人と、人々で暑さにまいりました。海外代表団からのメッセージ・コメントの多さに驚きました。核兵器のない世界、原発ゼロの実現へ世論と運動をつくろうとの決意にあふれていました。開会総会終了後、原爆ドーム・平和の鐘・爆心地と見学してホテルに。

二日目、分科会は映像の広場「反核平和の飛躍に活かそう！」でした。五五〇名で映像活用の体験を交流し、そのノウハウを学び、「歩く」の原水爆禁止国民平和大行進のドキュメンタリー映画でした。東京から広島まで通しての行進に七〇日かかるのに驚きました。午後からは、参加希望者で原爆の子の像に行き（折り鶴の献納）そして平和祈念資料館の見学、被爆された方は、今現在も苦しんでいる事を忘れてはいけません。

誰もが当たり前に持つ常識を大切に

今回初めて原水爆禁止世界大会に参加して、改めて原爆の残酷さや悲惨さを感じました。しかしという事を知り、核兵器や原発は廃止し、平和な世界になる様に、私も協力したいと思いました。

平和の祈りを捧げる小柳常任

核・原発は要らない思いはみな同じ

【小柳健治常任・立花第一】以前から一度は広島を訪れ、実際に原爆ドームを見てみたいと思っていました。

二日目に原爆ドームや現在でも残っている当時の学校の一部や、亡くなられた方の慰霊碑、原爆資料館を巡りながら、あの原爆で放射能を浴び、一面焼け野原になった広島が見事に復興している様子を見て、人間の力は本当に素晴らしいものだと感じました。また平和祈念公園には樹木が生え、真夏の今は蝉が鳴いていますが、自然の生命力にも驚かされました。

今回初めて原水爆禁止世界大会に参加して、改めて原爆の残酷さや悲惨さを感じました。しかしという事を知り、核兵器や原発は廃止し、平和な世界になる様に、私も協力したいと思いました。

一日目の開会総会では、大勢の方が日本各地や世界各国から参加していましたが、代表の方のスピーチをはじめ、「核兵器や原発はいらない」という思いは一緒でした。

第一四分科会はDVD上映の多い分科会でした。最初の「歩く」というDVDを観た時に、第五福竜丸が展示されている夢の島を出発して、広島までを七〇日間かけてカンパを集めながら歩いている映像を観て、先日自分も参加した平和大行進がこれなのだと気づきました。また第五福竜丸の乗組員の方が放射能を浴び被爆し、髪の毛が抜け、病気になり、不安と苦しみの中で亡くなったという事を知り、核兵器や原発は廃止し、平和な世界になる様に、私も協力したいと思いました。

原爆は世界を、地球を破滅する

【金澤哲治執行委員・本所第二】広島へ初めて参加させて頂きました。私にとっては充実した四日間でした。平和祈念式典という厳かな式に参加し、改めて被爆で亡くなられた方々の無念さ、悔しさが胸に突き刺さる思いがします。

原爆投下から六七年がたち、現在でも被爆の為に苦しんでいる方々がいるそうですが、この様な恐ろしい原爆は絶対に無くさなければいけません。日本はおろか世界、いや地球が破滅するのではないかと危惧します。

この様な気持ちがますます強くなり、これからは人々に声を大にして原爆反対を訴えて行きたいと思います。

三日目の午後、安芸の宮島、厳島神社へ参拝しました。核兵器が無くなり、戦争が二度と無い様に祈り、それと拡大のこともちょっと祈り、船に乗り広島へ戻りました。

今回広島へ行けたことは自分にとって大変意義のある生涯忘れない思い出になると思います。ありがとうございました。

最後に、ノーモア広島、ノーモア長崎

になってはいけないのだ。広島の事、東京大空襲の事、そして戦争というものの愚かさを、決して風化させてはいけない。ましてや美化など決してさせてはいけない。私達はいつも覚えていなければいけない。国と国との争いで、どんなに簡単に人が死ぬのか。身近な者の死がどんなに哀しく辛い事かを。そしてその不条理が個人ではとても解決できない事を。私達は決して忘れずに、覚えておかなければならない。

いつの時も人は、時の力を借りて、哀しみ・苦しみを和らげてきました。そして時は平等に、すべての人々を飲み込みくしかない宿命となる。

万人が知る、人を殺せば罪になるという常識。それを国家の元で行えば英雄となるこの不条理。だからこそ誰もが当たり前に持つ常識、これこそ大切にしたい。始めの一滴がせせらぎ・小川・大河・海へとつながるように、私達は責任を持って次世代へ、平和の流れを大河のように育て、守っていく努めがあります。

具体的には周囲の情報に常に関心を持ち、アンテナ感度を高め、何が真実かを見極める眼を養うことが必要だと思います。始めの一滴はそれぞれ違っていても、向かう先は一つ。粘り強くぶれずに

明日への希望

資格講習会のご案内

《職長・安全衛生責任者教育》※墨田支部開催
講習日　一〇月二七日～二八日の二日間
受講料　一三、〇〇〇円
対象者　常時現場で直接指揮監督する方
締　切　定員四〇人になり次第

《木造建築物の組立等作業主任者》
講習日　一一月一四日～一五日の二日間
受講料　一〇、〇〇〇円
対象者　経験三年以上
締　切　定員六〇人になり次第

《有機溶剤作業主任者》
講習日　一〇月四日～五日の二日間
受講料　一〇、〇〇〇円
対象者　十八歳以上
締　切　定員六〇人になり次第

《石綿作業主任者》
講習日　一〇月一〇日～一一日の二日間
受講料　一〇、〇〇〇円
対象者　十八才以上
締　切　定員六〇人になり次第

《酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者》
講習日　一一月五日～七日の三日間
受講料　一八、〇〇〇円
対象者　十八才以上
締　切　定員二〇人になり次第

《自由研削砥石特別教育》
講習日　一〇月一六日
受講料　六、八〇〇円
対象者　十八才以上
締　切　定員四〇人になり次第

《低圧電気取扱作業者特別教育》
講習日　一一月二二日
受講料　六、八〇〇円
対象者　十八才以上
締　切　定員六〇人になり次第

《玉掛技能講習》※実技は板橋で開催
講習日　一〇月二〇日～二二日の三日間
受講料　二〇、〇〇〇円
対象者　十八才以上
締　切　定員三〇人になり次第

《増改築相談員新規研修会》
講習日　一〇月一五日～一六日の二日間